

< 平成19年度に調査した外来植物 >

- 4～6月 ナガミヒナゲシ、アツミゲシ
- 5～7月 オオキンケイギク
- 7～8月 タカサゴユリ
- 9～10月 メリケンカルカヤ
- 通年 アゾラ・クリスタータ、オオフサモ など

< ナガミヒナゲシ (*Papaver dubium* L.) ケシ科 ケシ属 >



原産地は地中海沿岸。一年草または越年草。茎や葉には毛がやや密に生える。茎は高さ10～60cmで直立し、大きい株では上部で分枝する。葉は1～2回羽状深裂で、茎葉では基部の裂片が大きくなり3出状になる。花は春から初夏、枝の先端に単生。大きいもので径約5cm、つぼみの時は下を向いていて、2枚の長い開出毛が密生する萼片に包まれているが開花時に直立し、萼片が脱落する。花弁は十字対生する4枚で朱赤色。雌蕊は花柱がなく、柱頭は円錐形で4～8本の放射条がある。雄蕊は多数。挿花は長卵型で無毛、熟すと薄茶色になり先端の円盤の下に隙間ができ、隙間から種子がこぼれ落ちる。麻薬成分を含まないので、栽培は禁止されていないが、ケシと交配する可能性を示唆した論文がある。近年道路端や畑で急速に増加しており、リスク評価が必要である。

(「外来植物の科学成分と雑草性リスク評価」
(独)農業環境技術研究所 2008)

ナガミヒナゲシの現状

各地で野生化し、近年都市部で急激に生息域が増化しているといわれています。

周南市でも街中のいたるところで咲いていて、オレンジ色のじゅうたんのような花畑になってしまっています。花壇、公園、空き地、路側帯・分離帯、街路樹の下、植え込み、溝の中やコンクリートの壁まで・・・

都市部だけでなく、里地・里山にも侵入し始めていますが、「田んぼのミニミニ生き物図鑑」の中に仲間入りしていたのは、ショックでした。(「田んぼが学校になった」佐伯剛正 2007)

花がきれいなので、突然生えてきても、花壇やプランターがいっぱいになっても、抜かれずに残されていることもよくあります。

最近は、誰も手入れしない道路端に増えてきたので、落ちた種子が車のタイヤなどでも散らされたり、運ばれたりして、昨年1本もなかった場所が群落になったりしています。



「ナガミ」という名前は、実が長いことから付けられました。

「ケシつぶのような」という比喩表現があるように、ものすごく小さい種子が、長い実の中にびっしり詰まっています。

↑ 5～2 cmの種子で700～1200個の数のケシ粒が入っています。(左の写真で既に2万個?!)

← 花が終わると次第に薄茶色になり、隙間から種子が散布された後は、見苦しく突っ立って残っています。



← 小さいものでは、花の高さは、1 cm～3 cm。1 cmの花にも、実がなり、種ができます。正直なところ、除草していると、気が遠くなりそうです・・・。

市街地には拡がりすぎてどうしようもないのでしょうか？

すべてをなくすのは難しいと思います。でも、まだまだ市内にも生えていない所はたくさんあります。

庭に咲いている場合は、花を愛でた後は、種ができる前に取り除くか、抜いてください。これ以上拡げないでください。

車などにくっついて侵入してしまった「ケシ粒」が、花を咲かせても、最初の1本を取り除いて種子の拡散を防ぐことで、「増殖」しないで済みます。

外来植物の防除は、早期発見！！早期治療！！ 侵入したての時に除去することで、拡散を防げます。



(例) 周南市東川

三面コンクリートの壁に・・・咲いていました。

河川敷に落ちると、種が下流に流されることで拡がるため、特に注意が必要。

まだ、数箇所だけなので、継続して見張っています。